平成28年3月1日
第106号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 黒瀬和美
電話 972・5819

水路嵩上げで施設の長寿命化

非常に強固に仕上がった水路の嵩上げ。一部機械の乗り入れ用に「切り取りできないか」という問いに業者は「かなり厳しい」と答えていました。トラクターのターンには呉々もご注意を！



平成27年度の長寿命化事業は、前年に引き続いて配水路の嵩上げ工事を行いました。場所は昨年度に行った市道わきとは反対側の水路です。

距離は約１００メートルです。従来の水路の上面を加工し、鉄筋等の補強材を埋め込み、そこにコンクリートを打設して約12Ｃｍ高さを上げました。

２月11日には、出来上がった工事箇所を役員数名で検査をしました。その結果予定通りの施工がされたことを確認しました。

この事業は年度当初から決めていたものではありませんでした。当初は揚水ポンプからの送水管を徹底的に調べるということを予定していました。ところが、実施を検討する段階で長寿命化の対象から外れる可能性が高いという指摘が、水土里ネット(県土連)の担当からありました。

そこで他の事業に取り組むしかないという状況になっていくつか案を検討しました。

一つは排水路（悪水）側の整備です。しかし、この部分をどう改良していくかについては十分な検討がされていませんので、見送りとなりました。もう一案は古いコンクリート水路をベンチフリューム（コンクリート製水路）に置き換えることです。しかし従来使ってきた製品を手に入れるためにはかなりの時間がかかることが分かりました。それために、今回の事業となりました。

しかし、非常に良い状態に施工されたので、結果的には一番良い選択だったと考えています。

送水管をしっかり守ろう

従前から多少の水漏れなどがおきていた送水管については、誰もが心配しています。私たちはこの送水管を建設した頃の状況を知ろうと、各方面に工事の際の図面などが手に入らないか、調べてみました。

県や土木事務所、山口市、小郡総合支所などいろいろな方に会って話をしましたが、今ではその当時のことを知っている人は殆どいませんでした。今では当時の工事の正式な名称すら分からない状況です。

今後は私たち自身で、定期的に観測を続けるしか方法はありません。



送水管を点検。写真で見ると曲がりが分かる

この通信は http://www.harataco.org/sigeki/ で読むことができます

貴重な水資源を大事に使おう



水路の中から作業。バックアップ材があるのでシールの使用は少量

水路本線の水漏れを防ぐための作業を1月31日に実施しました。

この作業は多くの地域の人々にも参加していただこうと24日に行う予定でしたが、猛烈な寒波で実施できなくなり、1週間後に役員を中心に作業を行いました。

水路のコンクリートは所々につなぎ目があります。ここには本来、少し柔らかいものが置かれていて、温度によるコンクリートの伸縮を吸収するようにできています。しかし、年月を経てそれらが失われてしまい、完全な隙間になっているところがありました。

作業は、隙間にウレタンチューブを押し込みバックアップ材とします。その上にシリコンシーラントを塗りつけて、漏水を防ぐようにしました。水資源の無駄が軽減となります。

コンクリートプレートは重い

平成26年度の事業で、農事組合法人八方原の機械倉庫西側の水路を改修しました。本来は水路の改修とともにその水路に面した斜面の土砂流出を抑えるためにコンクリートプレートを置く計画でした。実際にはプレートを置くまで作業はできないままで終わっていました。

2月11日に、その50枚のコンクリートプレートを設置する作業を行いました。一枚が50kgあるので、全部で2.5トンという重量になります。

まず、斜面をきれいにして、あらかた均一な斜面にします。それから、このプレートを一枚一枚、手で運んで丁寧に斜面においていきました。



2段で敷き詰められたコンクリートプレート。手前の黄色いコーンは、この度安全確保のために導入したもの。

きちんと測量して路盤を作成して行った作業ではありませんが、土砂の流出を防ぎ、周辺での作業の安全性を高めました。

地域の教育力を学校に

「地域連携教育」ということばを聞かれたことがあるでしょうか。次の時代を担う若者は学校だけでは育てられない、学校教育は地域の力を必要としていると同時に地域は学校から元気をもらっているという考えからお互いに力を合わせて行こうという考えです。

八方原には昔から上郷小学校の児童が田植えの見学に来ていますが、これも連携教育の一環です。最新の田植機を使った作業を、お目にかけています。また伝統的なしめ縄作りを、地域のベテランが学校で、指導することもあります。

山口市ではこうした活動をより多くの場面で拡大していこうとしています。小郡地域ではこうした連携がいろいろ場所で行われていますが、これらをまとめて体系的に実施していくことが必要とされています。

そこで、地域と学校の調整役として各地区に「地域協育コーディネーター」がおかれることになりました。「協育」というのはみんなで力を合わせてという意味です。よろしくお願いいたします。

小郡地域協育ネット協議会
コーディネーター　原田茂樹